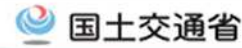


協議案件（４）地域公共交通確保維持改善事業について

地域公共交通確保維持事業（陸上交通：地域間幹線系統補助）



地域特性や実情に応じた最適な生活交通ネットワークを確保・維持するため、地域間交通ネットワークを形成する地域間幹線系統の運行について支援。

補助内容

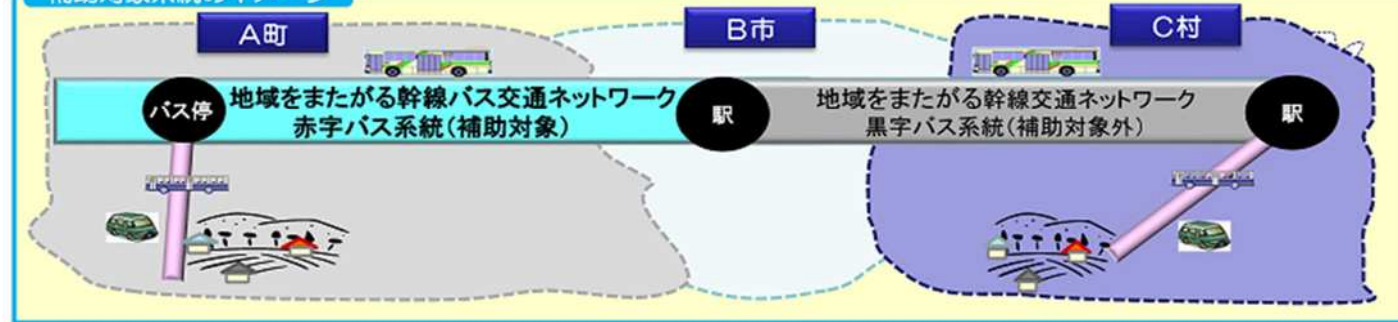
- 補助対象事業者
一般乗合旅客自動車運送事業者又は地域公共交通活性化再生法に基づく協議会
- 補助対象経費
予測費用（補助対象経常費用見込額）から予測収益（経常収益見込額）を控除した額



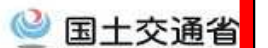
＜補助対象経費算定方法＞
予測費用
（事業者のキロ当たり経常費用見込額
× 系統毎の実車走行キロ）
－
予測収益
（系統毎のキロ当たり経常収益見込額
× 系統毎の実車走行キロ）
＝ 補助対象経費
＝ 欠損

- 補助率
1/2
- 主な補助要件
・複数市町村にまたがる系統であること（平成13年3月31日時点で判定）
・1日当たりの計画運行回数が3回以上のもの
・輸送量が15人～150人／日と見込まれること
※ 1日の運行回数3回（朝、昼、夕）以上であって、1回当たりの輸送量5人以上（乗用車では輸送できず、バス車両が必要と考えられる人数）
※ ①復興特会から移行する応急仮設住宅非経由系統のうち、東日本大震災前に輸送量要件を満たし、補助対象期間に輸送量見込が要件を満たさない系統、②熊本地震前に輸送量要件を満たし、補助対象期間に輸送量見込が要件を満たさない系統については、輸送量要件を緩和（一定期間）
・経常赤字が見込まれること

補助対象系統のイメージ



地域公共交通確保維持事業（陸上交通：地域内フィーダー系統補助）



地域特性や実情に応じた最適な生活交通ネットワークを確保・維持するため、幹線バス等の地域間交通ネットワークと密接な地域内のバス交通・デマンド交通の運行について支援。

補助内容

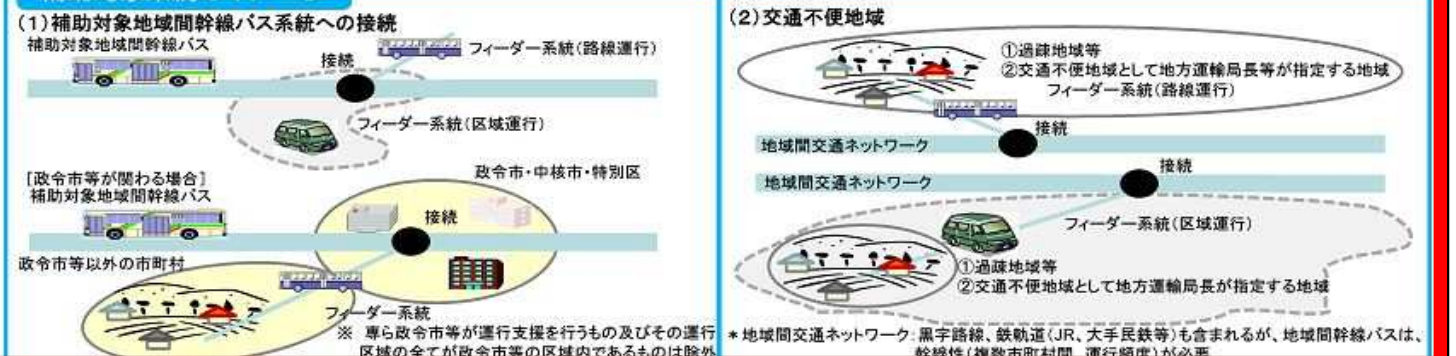
- 補助対象事業者
一般乗合旅客自動車運送事業者、自家用有償旅客運送者又は地域公共交通活性化・再生法に基づく協議会
- 補助対象経費
補助対象系統に係る経常費用から経常収益を控除した額



＜補助対象経費算定方法＞
経常費用
（事業者のキロ当たり経常費用
× 系統毎の実車走行キロの実績）
－
経常収益
（系統毎の運送収入、運送雑収
及び営業外収益の実績）
＝ 補助対象経費
＝ 欠損

- 補助率
1/2
- 主な補助要件
・補助対象地域間バス系統を補完するものであること又は過疎地域等の交通不便地域の移動確保を目的とするものであること
・補助対象地域間幹線バス系統等へのアクセス機能を有するものであること
・新たに運行又は公的支援を受けるものであること
・乗車人員が2人／1回以上であること（定時定路線型の場合に限る。）
・経常収益が経常費用に達していないこと

補助対象系統のイメージ



地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付までの流れ（令和6年度：令和5年10月1日～令和6年9月30日）

令和5年度

令和6年度地域内フィーダー系統確保維持計画（案）の作成

6月

豊田市公共交通会議にて計画案協議

6月末まで

計画を国へ申請（公共交通会議⇒国）

9月末頃

計画の認定

10月1日

補助対象事業期間開始（令和6年9月30日まで）

令和6年度

令和6年9月30日まで1年間運行し、補助対象事業期間終了

11月末まで

令和6年度補助金交付申請【運行事業者⇒国】

1月末まで

事業評価（一次評価）

2月末まで

事業評価（二次評価）

3月頃

補助金交付決定及び額の確定【国土交通大臣】

運行事業者へ補助金交付

令和6年12月
豊田市公共交通会議にて
評価案協議

令和6年度 豊田市地域バス 国庫補助対象路線の評価について

1 補助対象路線と交付申請予定補助金額(令和5年10月～令和6年9月)

対象路線	令和6年度(千円)
稲武地域バス(デマンド)	724千円
藤岡地域バス(西市野々線、三箇線)	5,893千円

2 評価目的

・「事業の実施状況の確認」、「目標達成状況」等の評価を行うことによって、より効果的、効率的に運行されることを目的とする。

3 評価の流れ

日程	令和5年6月 (豊田市公共交通会議)	令和6年12月 (豊田市公共交通会議)	令和7年2月 (国による第三者評価委員会)
対象路線	地域バス補助路線	地域バス補助路線	国庫補助対象路線
実施内容	計画申請	一次評価(自己評価)	二次評価(有識者による第三者評価)

※基幹バス等補助路線については、愛知県バス対策協議会にて評価を実施

4 目標の達成状況と今後の方針

●目標・効果達成状況及び今後の改善点

系統	目標値(収支率・利用者数)	実績値(収支率・利用者数)	達成状況
稲武	1. 5割・ 3,617人	2. 1割・ 3,968人	達成
藤岡	4. 8割・22,920人	7. 3割・24,181人	達成

- 稲武地域バス・・・(原因)小中学生の通学利用が主であり、通学者の増加により利用者は増加しているが、一般利用は伸び悩んでいる。
(今後の方針)地域バスのPR・要望調査を行い利用者の増加に努める。
- 藤岡地域バス・・・(原因)利用者数はコロナ前の状況に戻りつつあり微増傾向にある。一方、通学や通勤以外の利用者が増えていない。
(今後の方針)一般利用者・高齢者のニーズ把握に努め、持続可能な地域バスのあり方について検討していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

参考

【令和6年度分】

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

補助対象事業者等		事業概要		前回の事業評価結果の 反映状況	事業実施の適切性	目標・効果達成状況						複数市町村を跨ぐ系統としての役割/ 幹線系統としての役割	事業の今後の改善点 (特記事項を含む)			
						A・B・C評価	輸送量				収支率					
							R6計画	R6実績	(平均乗 車密度)	(運行回 数)	R5実績			R6実績		
運営主体	運行事業者	系統名	運行区間													
豊田市	名鉄バス 株式会社	おいでんバス (旭・豊田線)	小渡～広瀬～豊 田市	・交通系共通ICカードのODデータ取得 による利用実態の把握 ・改善基準告示を踏まえたダイヤの見 直し ・各種イベントでバスPRの実施	A	補助対象期間の開始日から、運 休や大幅な遅れもなく、所定の 事業計画どおりの運行が実施さ れている。	A	目標:80,446 実績:100,015 達成率:124.3% 新型コロナウイルスの影響が希薄にな り、移動が活発になったため。	28.0	34.5	3.2	10.8	18.9	19.6	市町村(合併以前)を跨いでの利用者は1割以上あり、山村 部と都市部の移動手段として重要な役割を果たしている。引 き続き利用者の属性を捉え、効果的な利用促進策の検討に 努めていく。	利用実態に即したダイヤの検討や、地域資源 を活用した利用促進や通学支援の実施。
豊田市	名鉄バス 株式会社	おいでんバス (小原・豊田線)	上仁木～西中山 ～豊田市	・交通系共通ICカードのODデータ取得 による利用実態の把握 ・改善基準告示を踏まえたダイヤの見 直し ・各種イベントでバスPRの実施	A	補助対象期間の開始日から、運 休や大幅な遅れもなく、所定の 事業計画どおりの運行が実施さ れている。	A	目標:157,909 実績:183,334 達成率:116.1% 新型コロナウイルスの影響が希薄にな り、移動が活発になったため。	61.4	75.0	6.2	12.1	35.4	34.7	市町村(合併以前)を跨いでの利用者は全体の1割以下にと どまっているものの、一定の割合で市郊外から市中心部へ の通勤・通学手段として利用されていることが分かる。引き 続き利用者数の属性を捉え、効果的な利用促進策の検討に 努めていく。	利用実態に即したダイヤの検討や、地域資源 を活用した利用促進や通学支援の実施。
豊田市	名鉄バス 株式会社	おいでんバス (藤岡・豊田線) (西中山経由)	藤岡中学校前～ 豊田市	・交通系共通ICカードのODデータ取得 による利用実態の把握 ・改善基準告示を踏まえたダイヤの見 直し ・各種イベントでバスPRの実施	A	補助対象期間の開始日から、運 休や大幅な遅れもなく、所定の 事業計画どおりの運行が実施さ れている。	A	目標:101,216 実績:103,053 達成率:101.8% 新型コロナウイルスの影響が希薄にな り、移動が活発になったため。	43.3	45.5	6.6	6.9	47.1	43.7	市町村(合併以前)を跨いでの利用者は、約6割と高い割合 を保っている。このことから市郊外部から市中心部への通 勤・通学手段として重要な役割を果たしていることがわか る。	利用実態に即したダイヤの検討や、地域資源 を活用した利用促進や通学支援の実施。
豊田市	豊栄交通 株式会社	おいでんバス (藤岡・豊田線) (加納経由)	藤岡支所～豊田 市	・交通系共通ICカードのODデータ取得 による利用実態の把握 ・改善基準告示を踏まえたダイヤの見 直し ・各種イベントでバスPRの実施	A	補助対象期間の開始日から、運 休や大幅な遅れもなく、所定の 事業計画どおりの運行が実施さ れている。	A	目標:82,754 実績:100,687 達成率:121.7% 新型コロナウイルスの影響が希薄にな り、移動が活発になったため。	37.2	46.3	4.1	11.3	34.9	35.8	市町村(合併以前)を跨いでの利用者は全体の4割を超え、 市郊外から市中心部への通勤・通学手段として利用されて いることがわかる。また、昼間時においても、市郊外から市 中心部への利用が一定数みられ、生活交通として重要な役 割を果たしている。	利用実態に即したダイヤの検討や、地域資源 を活用した利用促進や通学支援の実施。
豊田市	豊栄交通 株式会社	おいでんバス (下山・豊田線)	大沼～鶉ヶ瀬～豊 田市	・交通系共通ICカードのODデータ取得 による利用実態の把握 ・改善基準告示を踏まえたダイヤの見 直し ・各種イベントでバスPRの実施	A	補助対象期間の開始日から、運 休や大幅な遅れもなく、所定の 事業計画どおりの運行が実施さ れている。	A	目標:129,972 実績:158,718 達成率:122.1% 新型コロナウイルスの影響が希薄にな り、移動が活発になったため。	73.0	80.0	6.9	11.6	53.7	55.7	市町村(合併以前)を跨いでの利用者は、全体の約2割であ り、山村部から都心部への通勤・通学手段として重要な役 割を果たしていることが分かる。	利用実態に即したダイヤの検討や、地域資源 を活用した利用促進や通学支援の実施。
豊田市	豊栄交通 株式会社	おいでんバス (さなげ・足助線)	豊田厚生病院～ 百年草	・交通系共通ICカードのODデータ取得 による利用実態の把握 ・改善基準告示を踏まえたダイヤの見 直し ・各種イベントでバスPRの実施	A	補助対象期間の開始日から、運 休や大幅な遅れもなく、所定の 事業計画どおりの運行が実施さ れている。	A	目標:159,084 実績:179,576 達成率:112.9% 新型コロナウイルスの影響が希薄にな り、移動が活発になったため。	68.0	71.2	4.4	16.2	35.6	34.1	市町村(合併以前)を跨いでの利用者の割合が全体の3割を 超え、山村部からの通勤・通学手段以外にも、鉄道駅と観 光地を結ぶ路線として、重要な役割を果たしていることが分 かる。	利用実態に即したダイヤの検討や、地域資源 を活用した利用促進や通学支援の実施。
豊田市	高岡ふれあいバ ス運行共同企業 体	高岡ふれあいバス (路線②)	上丘町～高岡公 園～知立駅	・前林地域の学生定期券の購入補助 を継続実施。 ・高齢者に対して回数券補助を整備。 ・走行経路の検討を実施。	A	補助対象期間の開始日から、運 休や大幅な遅れもなく、所定の 事業計画どおりの運行が実施さ れている。	A	目標:87,328 実績:104,355 達成率:119.5% 新型コロナウイルスの影響が希薄にな り、移動が活発になったため。	32.3	38.2	2.6	14.4	26.8	27.4	市町村を跨いでの利用者が大半を占めるため、通勤・通 学・買い物等への手段として重要な役割を果たしている。 ・利用目的・時間に応じた走行経路の検討。 ・専門家への相談、地域住民へのアンケート や実証実験の実施等を検討材料として、分析 に基づいた路線改編を目指す。 ・情報共有を密にし、引き続き本市ミニバスと ふれあいバスの乗り継ぎ等連携を図ってい きたい。 ・また、ミニバス・ふれあいバスを乗り継ぐコ ースを作成し、利用促進を促していく。	

※評価にあたっては、「事業評価を通じた地域公共交通確保維持改善事業の効果的実施にむけて(ガイダンス)」(平成25年11月)を参照し、実施。

【各評価項目の評価基準】

- ①事業実施の適切性
- A…事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。
B…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。
C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった。
- ②目標・効果達成状況
- A…事業が計画に位置付けられた目標を達成した。
B…事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。
C…事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年12月23日

協議会名： 豊田市公共交通会議(事務局:豊田市都市整備部交通政策課)

評価対象事業名： 陸上交通にかかる地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
豊栄交通株式会社 稲武地域バス	稲武地域バス全域 (小田木～大野瀬)	利用実態に合わせてバス停の移設を随時実施。 利用促進策として以下の取組を実施。 ①地域が主体となって支える仕組みづくり ・バス利用促進委員会で利用促進策を検討。 ・地域内のこども園の園外活動のための移動手段としてバスを利用。 ・地域内の児童の夏休み課外活動の移動手段としてバスを利用。 ②高齢者の利用に配慮した運行と整備 ・利用者宅の近くにバス停を新設し、利便性向上を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	今年度の利用者は3,968人(目標値3,617人)、収支率2.1%(目標値1.5%)であり、目標値を達成できた。 利用者数の増加は通学児童生徒によるものが大きく、一般利用による増加はあまり見られなかった。	一般利用者数が伸び悩んでいるため、自治区や地域団体と連携し利用促進を図る。また、イベント開催時にはバス利用のPR活動を行い、バス利用促進を図る。 地域の自治区へバス関係の要望調査を行い、地域住民の意見が反映されるようにする。
豊栄交通株式会社 藤岡地域バス	三箇線 (大平～メグリア藤岡店) 西市野々線 (西市野々～メグリア藤岡店)	通学に合わせたダイヤを設定している。 利用促進策として、藤岡南地区ふれあいフェスティバルでのPRを実施。 子ども向けに地域バスのぬり絵ブースを用意し、付き添いの方にはバスマップと時刻表を手渡しすることで普段地域バスを利用しない方にも、地域バスの啓発をした。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	今年度の利用者数は24,181人(目標値は22,920人)、収支率7.3%(目標値4.8%)であり、目標値を達成できた。 一般利用者数が伸び悩んでいるが、利用者の中心は小中高校生であり、学生利用が回復したことで収支率が上がったと認識している。	自治区や地域の団体と連携し、利用促進PRを行う。 小中学生や高校生の通学時の利便性に考慮しつつ、通学や通勤以外の利用者のニーズ把握に努め、高齢者も利用しやすいバス運行を検討する等、持続可能な地域バスの運行形態の見直しを図っていく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年12月23日

協議会名：	豊田市公共交通会議
評価対象事業名：	陸上交通における地域内フィーダー系統
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	豊田市は、広大な市域に都市部や山村部が広がり、市民生活の移動手段として自動車大きな役割を担っている。しかし、これからの超高齢社会や地球環境問題などを考えると、自動車に頼りすぎず、誰もが安全で安心に移動ができ、かつ交流が促進され、地域の活性化につながる交通体系を確立していく必要がある。 稲武地域バス、藤岡地域バスともに、地域内の通院、買い物、通学など住民の日常生活に欠かせない移動手段である。また、都市部に通う高校生など基幹バスでの移動が必須だが、基幹バスでは地域内を網羅することは困難であるため、地域バスとの接続によりそれらの移動需要に応えることができる。 どちらの地域でも地域住民による協議会を立ち上げ、地域の実情に応じた運行を目指し、行政と共働して路線を支えている。

中 運 交 企 第 1 9 1 号
令 和 6 年 3 月 21 日

豊田市公共交通会議
会長 鈴木 学 殿

中 部 運 輸 局 長
(公 印 省 略)

令和4・5年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について(通知)

日頃より国土交通行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、先般報告された標記事業にかかる一次評価について、これを基に二次評価を行ったため、別紙のとおり通知します。
なお、二次評価結果は協議会等において共有するとともに、次年度以降の計画等に反映いただくようお願いします。

【問合せ先】
中部運輸局交通政策部 交通企画課
TEL:052-952-8006

(別紙)中部運輸局二次評価結果 令和6年3月21日付け中運交企第191号通知

自治体・協議会名	豊田市公共交通会議
評価対象事業	地域内フィーダー系統

二次評価結果

評価できる取組 ・「おでかけバス70」の販売促進、新高校生や転入者向けの公共交通関連情報の提供や利用促進など、積極的に多様な取組を実施し、利用の底上げに努められていることを評価します。 ・利用促進などの各取組に際しては、商業施設や地元団体などとの連携を図り、なるべく事業費を抑えることにも留意しながら公共交通利用のきっかけ作りに取り組まれていることを評価します。 ・GTFSデータをオープンにすることにより、利便性を向上させたことを確認しました。 ・稲武地域バスにおいては、高齢者の利用の増加のため、バス停の新設を行い、藤岡地域バスについては普段利用しない方に対しても時刻表の配布等利用促進を行ったことを評価します。
期待する取組 ・これまでの取組に係る分析や考察から得られた課題に対し、今後の取組方針に沿いながら関係者と連携して取り組むことを期待します。 ・サイクルラックバスについては、自転車が趣味の方々のコミュニティや立ち寄り場所へのPRなど、引き続き周知に工夫されることを期待します。 ・地域バスについては、市域が広く地域によって様相に違いがあるため、引き続き、利用状況や地域住民の意見等を分析・考察し、今後の取組に向けた検討が進められることを期待します。 ・みよし市との連携による事業者路線の利用促進などについても検討されることを期待します。 ・地域間幹線系統である大沼線の輸送量が補助要件基準の15人に近いことから、引き続き、現状の把握に努めるとともに、関係する岡崎市と連携して利用促進を図るよう期待します。